



は種は少なく追肥たっぷり、が、ぼくのスタイル  
ユニックスは、うどんこ病にも効いたよね。

清水町 中村 茂隆さん(36歳)

お母様と奥様、ご本人の3人が就農。10歳の愛娘の優しいパパでもある。小麦、てんさい、ばれいしょ、豆などを手がける。総作付面積23ha



## あの猛暑にも負けず去年の小麦収量は630kgを確保。

「ここ数年は小麦の収量がよかったですね。昨年も10a当り630kgほどでした」そう語る中村さんは、就農17年目。ベテランの域に入ってきた頃である。中村さんの小麦づくりのコツはこうだ。

「自分なりに、は種量も堆肥も少な目にして、春先の追肥をたっぷりやるというスタイルでやってきました。今日も小麦を撒いてきたんだけど、は種量は10a当り7kgから8kgくらいかな」追肥の量は、どうやって見極めるのだろうか？

「茎数が多ければ控えめに、少なければ思い切りやってもいいかな、とか…。毎年条件が違うから、神経を使うところです」

昨年は、じつは思い通りにはいかなかった。天候がよすぎて茎がひょろひょろと伸びすぎてしまい、一部の圃場では倒伏を招いてしまったという。それでも630kgの収量を確保している秘密はなんだろうか。



少なめのは種で元気な麦を育てる

## はじめて試したユニックスでうどんこ病を撃退。

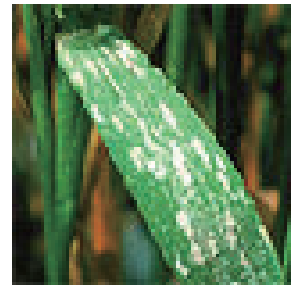
ここ清水町では、若手農家を中心とするさまざまな研究サークルが盛んだ。中村さん自身も「作物研究サークル」のメンバーとして長年活動してきた。サークルでは小麦の茎数による追肥計算などを研究し、実際の作業に活かしているという。「この十勝管内には研究熱心な農家が多いですね。下サホロにも土壌研究サークルというのがあるし、奥さん方もいろんな勉強会を開いています。最近若いメンバーが地域のお祭りで農作物の店を出したりと、ほんと、活発ですよ」

昨年は、5月末頃にうどんこ病が発生してしまった。やはり春先よりの好天で軟弱に育ってしまったのが原因だという。

しかし、出穂までほとんど出なかった圃場もある。それは、昨年はじめて導入したユニックスを散布した圃場だった。

「このへんでは眼紋病はあまり出ないもので、ユニックスは使ったことがなかったんですよ。でも試してみると、うどんこ病にきっちり効いてくれました。もちろん、眼紋病の早めの予防にもなりますね。」

ユニックスは、もちろん、これからも使いますよーとにっこり笑う中村さんである。



シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10 オフィスタワー-X 21階  
<http://www.syngenta.co.jp>

農業をご使用の際は、ご購入先、または当社ウェブサイトなどで最新の登録内容をご確認ください。

®はシンジェンタ社の登録商標 TMはシンジェンタ社の商標

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●薬剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器、空袋等は圃場などに放置せず適切に処理してください。

※2005年3月24日現在の情報です。